

自然・エコグループ

自然・エコグループの質問を始めます。

私たちのグループは、誰にとってもすごしやすいきれいな広島県にするにはどうしたらよいか、について話し合いました。

このことについて2つ質問をしたいと思います。

質問1 「ごみのポイ捨て防止に向けた対策」について

1つ目の質問は、「ごみのポイ捨て防止に向けた対策」についてです。

公園や歩道、自分の住んでいる町の中でも、ペットボトルやたばこの吸い殻のごみが捨てられています。ポイ捨てされたごみは、火災や交通事故の原因になるだけでなく、河川に入り、海に流出することで、海洋ごみとなり、生物を傷つけたり、その影響を受けた、海産物を私たちが食べることにより、健康被害の心配があります。

こうした、ごみのポイ捨ては、近くにごみを捨てる場所がなく、遠くまで、ごみ箱を探して捨てるのが面倒なために起きることも原因のひとつです。

そこで提案です。公園や街中のちょっとしたところにごみ箱の設置を増やすことを考えてはどうでしょうか。

そうすることで、ごみのポイ捨てが減り、「きれいな広島県」に近づいていくと思います。

次に、ごみ箱を設置するならば、そのごみ箱にみんなが捨てたくなる工夫が必要だと思います。

考えられるものとしては、ごみを捨てるとキャラクターの声や音楽のような音声が出るような楽しい仕掛けや、そのごみ箱で収容されたごみ量が表示され、ごみ箱の設置により、本来なら、路上や公園などに捨てられたであろうごみの量が把握でき、ごみ箱の設置がどれくらい役に立っているかがわかるようなしくみが考えられます。

そこで提案です。みんなが、ごみを捨てたくなるような、ごみ箱への工夫を考えてはどうでしょうか。そうすることで、みんなが、ごみを捨てる気持ちが高まり、設置したごみ箱が有効に活用されると思います。

ごみ箱の設置により、カラスなどの動物が、「ごみ」をあさり、においなどで苦情が出たり、ごみ箱のごみを回収する手間が、新たに発生することありますが、設置によ

って、ポイ捨てを減らすこともできます。どうかよろしくお願いします。

答弁（環境県民局長）

まず一つ目の提案の公園や街中のちょっとしたところにごみ箱の設置を増やすことについてお答えします。

ごみは何もしなければ燃やしたり埋めたりするしかなく、環境の汚染につながるほか、処理費用も多くかかることからごみを出さないようにするとともに、やむを得ず発生するごみについては、分別して再生利用することが大切です。

御提案いただいた、公園や街中にごみ箱を増やすことにつきましては、捨てやすくなるというメリットがある一方で、設置されることにより、ごみが減らない、十分な分別が行われないことのほか、ごみがあふれて景観を損ねたり、ごみへの放火が心配されるなどの課題があります。

このため、ごみの処理を担当している市町においては、ごみ箱を観光客などが多く訪れる特定の地域に限定して設置しており、公園や街中については、ごみ箱を設置するのではなく、ポイ捨てせずに持ち帰るよう促す看板の設置などに取り組んでいます。

県としましても、自分で出したごみは自分で持ち帰ること、また設置されたごみ箱については、ルールを守ってきちんと使うことを市町とともに県民の皆様と呼びかけていきたいと考えています。

次に二つ目の提案のみんながごみを捨てたくなるようなごみ箱への工夫についてお答えします。

街中に設置されたごみ箱については、ごみがあふれたり、分別されずに捨てられることがないように、御提案のとおり、皆さんがきちんと捨てたくなるような工夫が必要であると考えています。

このため、県では、事業者などと連携し、昨年度、写真を撮りたくなるようなデザインをラッピングした上でIoT技術により、入っているごみの量をリアルタイムで把握し、ごみが溢れないように圧縮できるスマートごみ箱「SmaGo」を広島市の八丁堀周辺など県内4地点に計12台、設置したところです。

今後とも、ごみをきちんと捨てたくなるような工夫や、楽しい仕掛けなどのあるごみ箱の設置に向けて、皆さんの御意見も参考にしながら、積極的に取り組んでいきます。

質問2 「ごみ捨ての意識を高める取組」について

2つ目の質問は、みんなの「ごみ捨ての意識を高める取組」についてです。

私は、「スポGOMI」というイベントに参加したことがあります。「スポGOMI」は、チームのメンバーと制限時間内に、ごみを拾い、それらごみの量と質でポイントを競いあう競技のようなものです。こうしたことにより、みんなが、捨てられてしまったごみを楽しく拾うことに目覚めていきます。「スポGOMI」のような、参加者が楽しみながら、地域のためにもなる取組がきれいな広島県のためには、有効だと思います。

そこで提案です。捨てられているごみを拾うことが楽しくなるような取組を考えてはどうでしょうか。

ごみを拾う作業は、あまり楽しいものではありませんが、こうした取組により、いままでごみ拾いに関心がなかった人が興味を持つようになり、清掃活動が活発になっていくことも期待されます。

公園、歩道、街中でのごみ拾いも大切ですが、一方で、自分の家を出た、ごみの中から、リサイクルできるものは、とことん、リサイクルを進めていく取組も大切です。

今、スーパーの店先でも、ペットボトルや食品トレイ、牛乳の紙パックなど、回収コーナーがあり、リサイクルに取り組まれています。こうした取組をどんどん普及させていけば、ごみの量もへり、環境にもよく、すごしやすい広島県になると思います。

そこで提案です。リサイクルに対して、更なる動機づけを高める工夫を考えてはどうでしょうか。

そうすることで廃棄されるごみが減り、焼却にともなう二酸化炭素排出の削減による温暖化防止や投棄による環境汚染の減少により、人間はもとより、すべての生き物にとって、住みやすい広島県になっていくのではないのでしょうか。

そのためには、リサイクル活動に対する動機づけを高めるための何か特典のようなものがあればよいと思います。

答弁（環境県民局長）

まず一つ目の提案の、捨てられているごみを拾うことが楽しくなるような取組についてお答えします。

捨てられているごみを拾うイベントは、参加した皆様に、地域の環境を守るため、ルールを守ってごみを捨てることや、ごみを出さないようにすることを意識していただく上で、大変効果のある取組であると考えています。

このため、市町においては、定期的に住民参加型の清掃活動を実施しているほか、県においても、企業等と連携した、海岸清掃イベントを実施し、事業者や県民の皆様に広く参加を呼び掛けているところです。

一方、こうした清掃イベントへの参加者は、地域の人や、環境問題への関心が高い人が中心であり、ごみ捨ての意識を高める効果が限定的であるという課題がありました。

このため、県では、より多くの皆様に参加していただけるよう、拾うことと楽しさを組み合わせたイベントが県内で広く行われるよう、事業者や団体の自主的な取組を後押ししており、御提案のあった、「スポGOMI」のほか、清掃活動とサッカーの応援を一緒に行う取組「クリーン&サンフレッチェ」ごみ拾いにゲームの要素を取り入れた「清走中」、ジョギングとごみ拾いをかけあわせた「プロギング」などが実施されています。

今後とも、広く県民の皆様の意識を高め、行動につなげていけるよう、御提案いただいた、ごみを拾うことが楽しくなるような取組について継続的に実施されるよう事業者や市町とも連携し、ごみのない地域社会の実現に向けて、取り組んでいきます。

次に二つ目の提案の、リサイクルに対して、更なる動機づけを高める工夫についてお答えします。

リデュース、リユース、リサイクルの3Rの取組を更に進めていくためには、県民の皆様への声掛けや、御意見のあった行動を変える動機付けとなる仕組みを活用することが、効果的であると考えています。

このため、県では、令和3年度にコンビニエンスストアと連携して「ポイントが付くペットボトル回収機」を、県内120箇所に設置しているほか、令和4年度には、製造メーカーと連携して、シャンプーボトルなどの回収についても、ポイントを付与する仕組みづくりを行っています。

今後とも、ポイントを活用するなど、リサイクル活動の新たな動機付けにつながる取組を進めるとともに、「ごみの量を減らし、資源を有効活用することで環境にもやさしい」というリサイクルの意義についても県民の皆様にわかりやすく伝えながら、3Rの推進に取り組んでいきます。